



令和7年度第1回湘南東部地区保健医療福祉推進会議

資料4

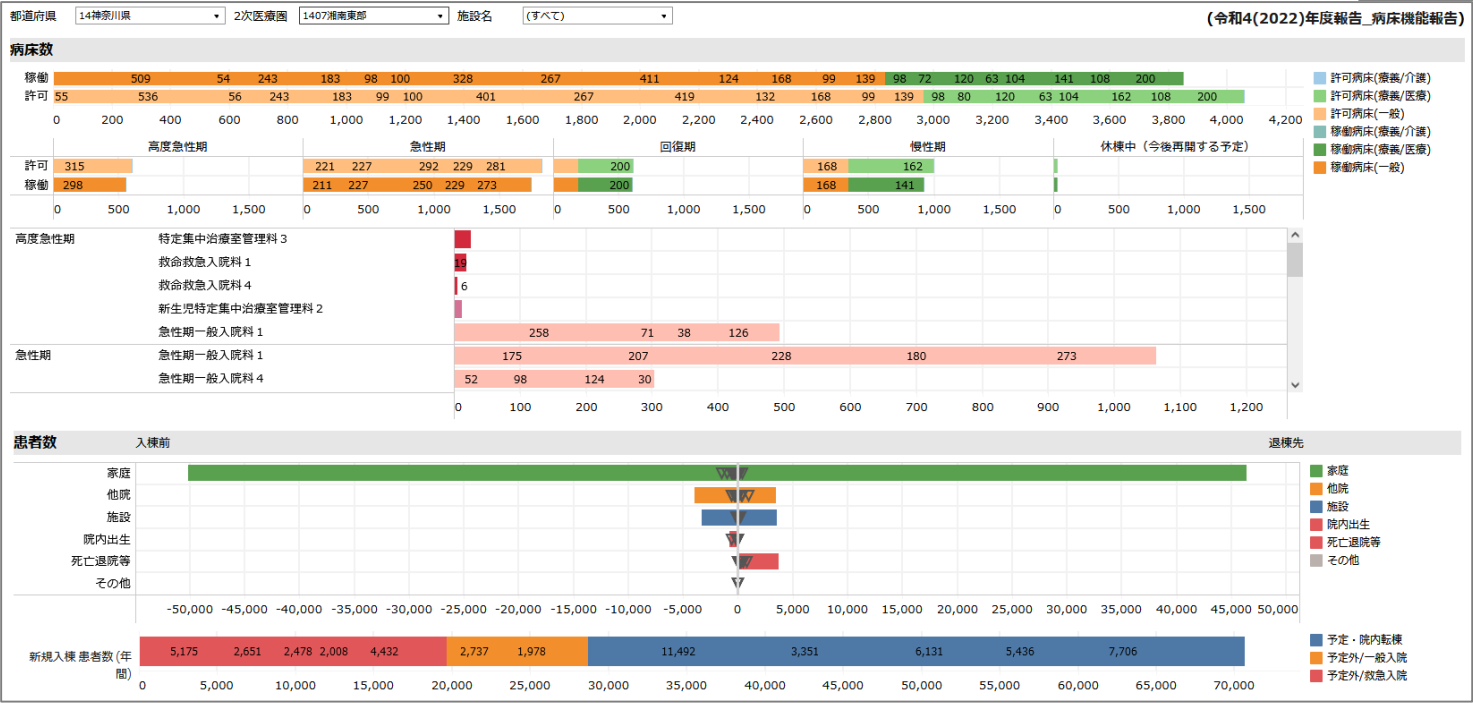
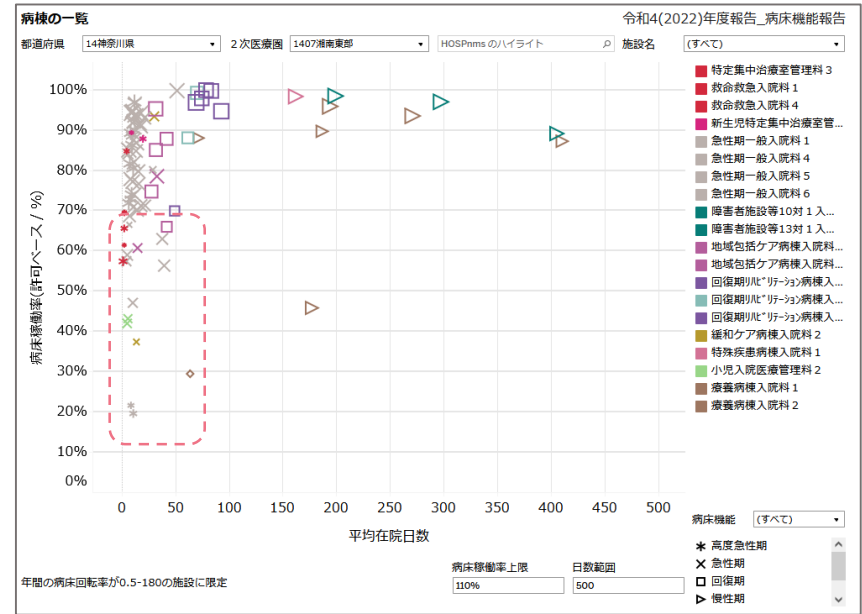
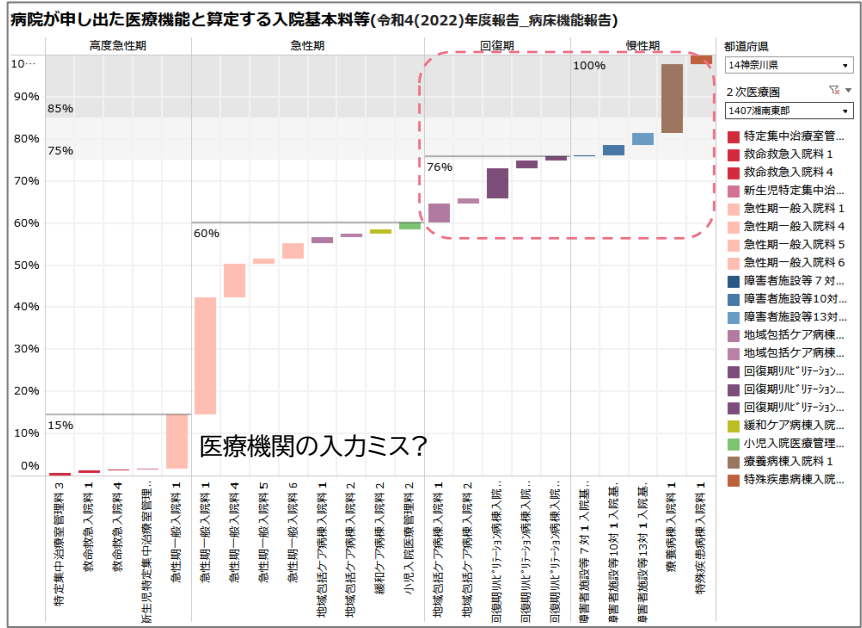
データ分析結果から見えてくる地域の状況・特徴等について

横浜市立大学 医学群データサイエンス研究科
ヘルスデータサイエンス専攻 講師 清水 沙友里

湘南東部の地域の状況

湘南東部 医療機能の状況

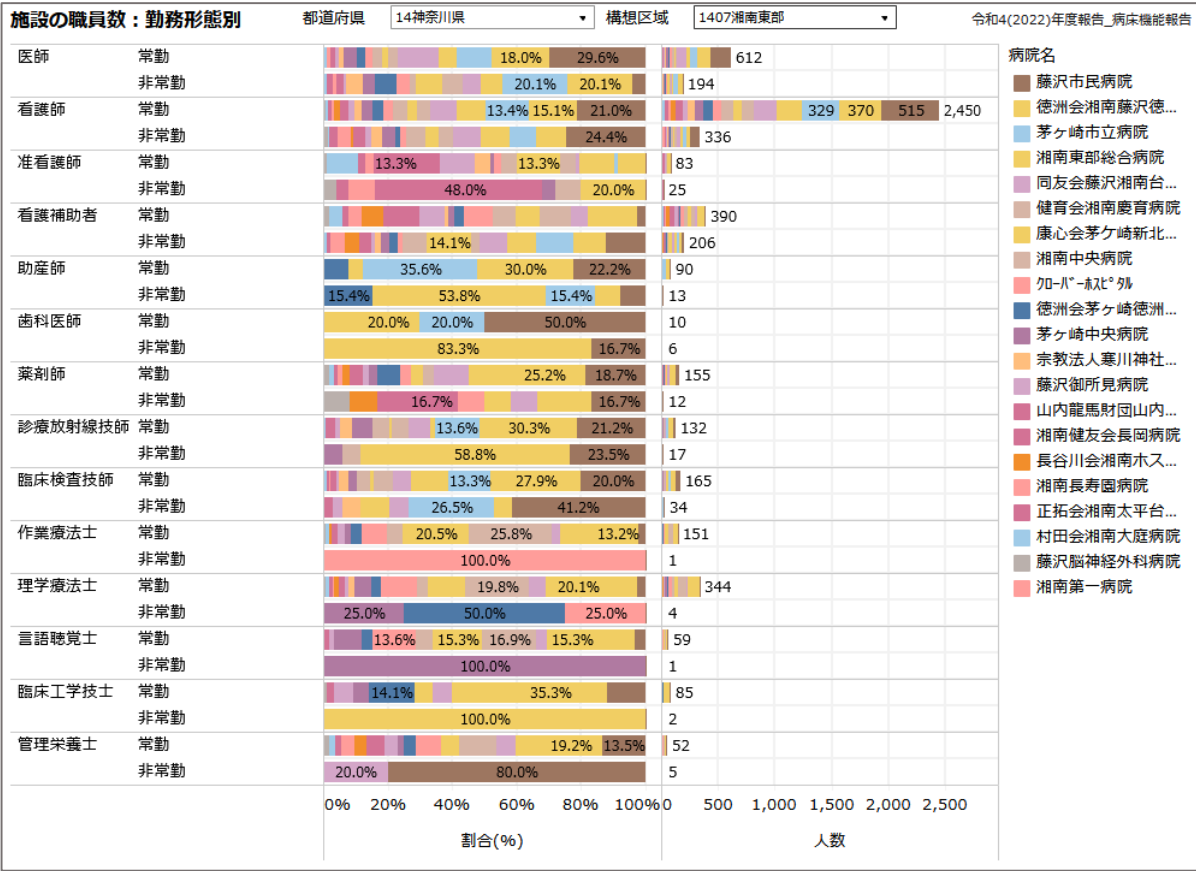
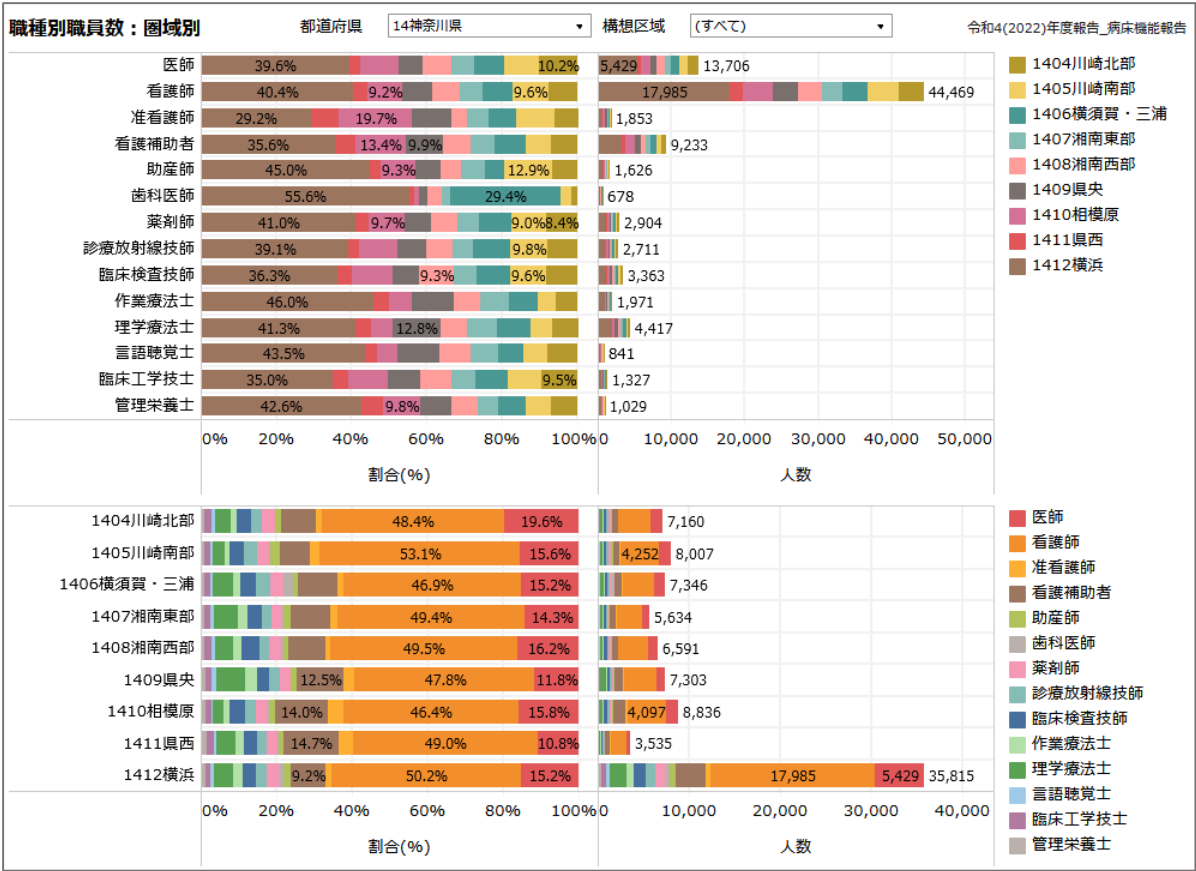
資料〇



- 2040年に向けて、75歳以上人口が1.08倍、生産年齢人口が0.89倍となる。大幅に減少する生産年齢人口で、高齢者の医療需要の増加に対応する必要がある
- R4年の構想区域における回復期・慢性期の病床は、病床全体の約40%、半数以上が療養病床であることから、回復期機能の充実が必要
- 地域の病床のうち45%(58.5%?)を占める急性期の持続可能性は課題
- 高度急性期病床は病床稼働率が低下している病床が多く、今後も低下が見込まれる
- 新規入棟した予定外/救急医療入院のうち、1病院で約30%を受け入れており、近隣地域からの救急医療需要を受け入れている

湘南東部 医療従事者の状況(病床のある医療機関)

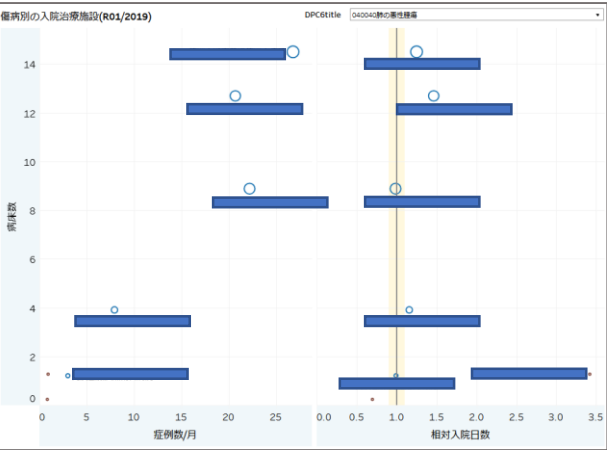
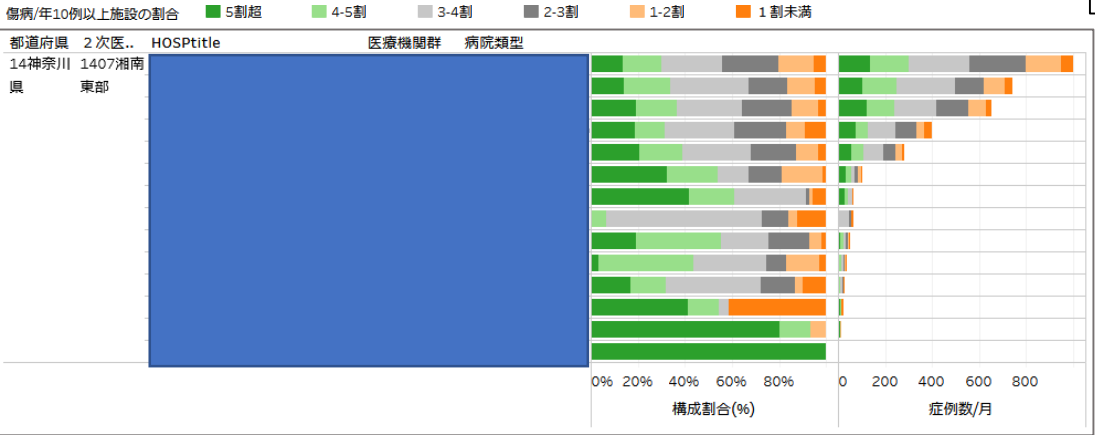
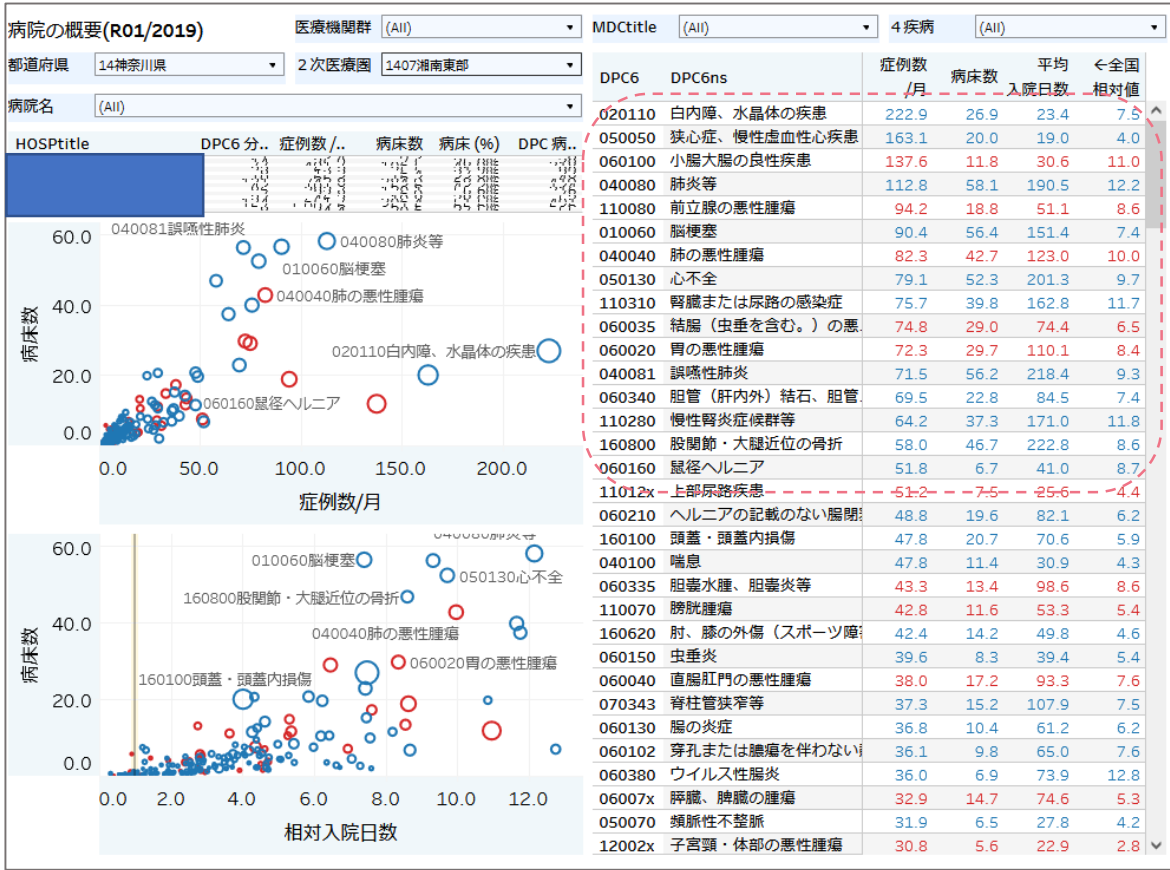
資料○



- 湘南東部は医療従事者のうち医師が14.3%を占めている、非常勤割合は24.1%と高い
- 看護師が49.4%と平均的
- 看護師は常勤2,450名、非常勤336名で非常勤割合は12.1%と高い、准看護師常勤83名、非常勤25名
- 作業療法士152名、理学療法士348名、言語聴覚士60名とリハビリスタッフは計10.0%

湘南東部 DPC病院の状況

資料〇



構想区域の視点

湘南東部は、大学病院本院群なし、DPC特定病院群なし、DPC標準病院群が5病院、DPC以外(準備病院/出来高)が9病院で構成
月間1000症例程度の入院を扱う1病院があり、以降階段状に症例数が分布

傷病別の視点

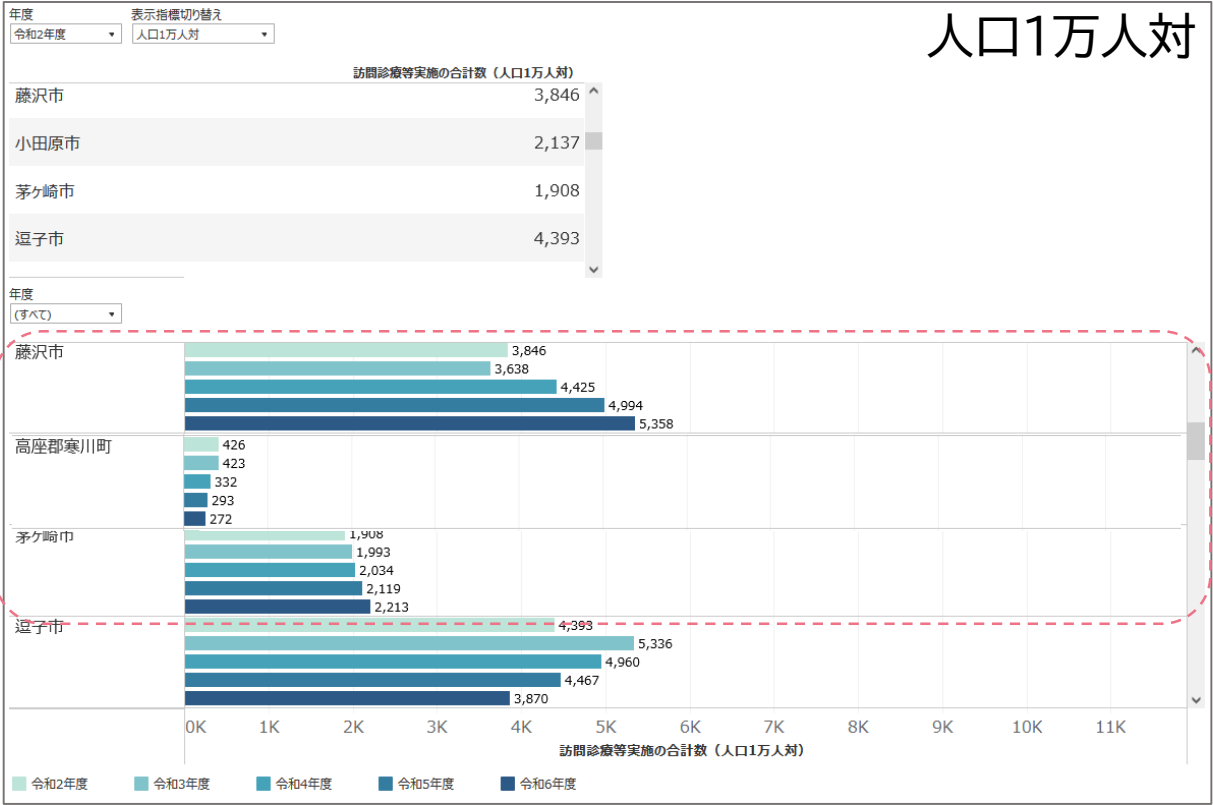
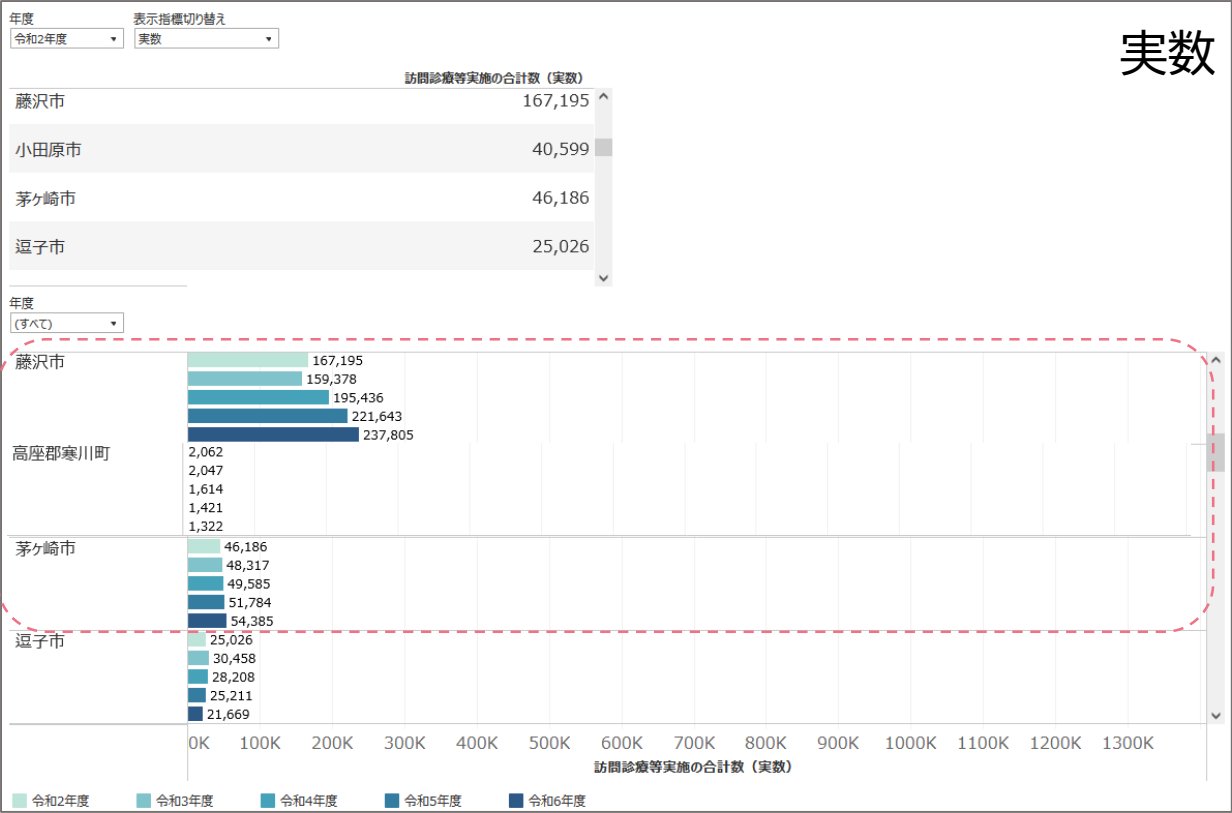
肺の悪性腫瘍は、7病院が実施、うちA病院が占有率32.5%、次いでB病院が27.0%、C病院が25.1%を占める

医療機関別の視点

強みを持つ診療科や手術実施状況など、個々の医療機関の専門範囲と実際の症例数を可視化

湘南東部(藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町) 直近1年に在宅療養を担当した合計診療患者数

資料○



- 在支診および在支病が直近1年に在宅療養を担当した合計診療患者数
- 藤沢市、茅ヶ崎市では合計診療患者数が増加傾向(実数)、寒川町では減少傾向にある
- 人口1万人対も同様

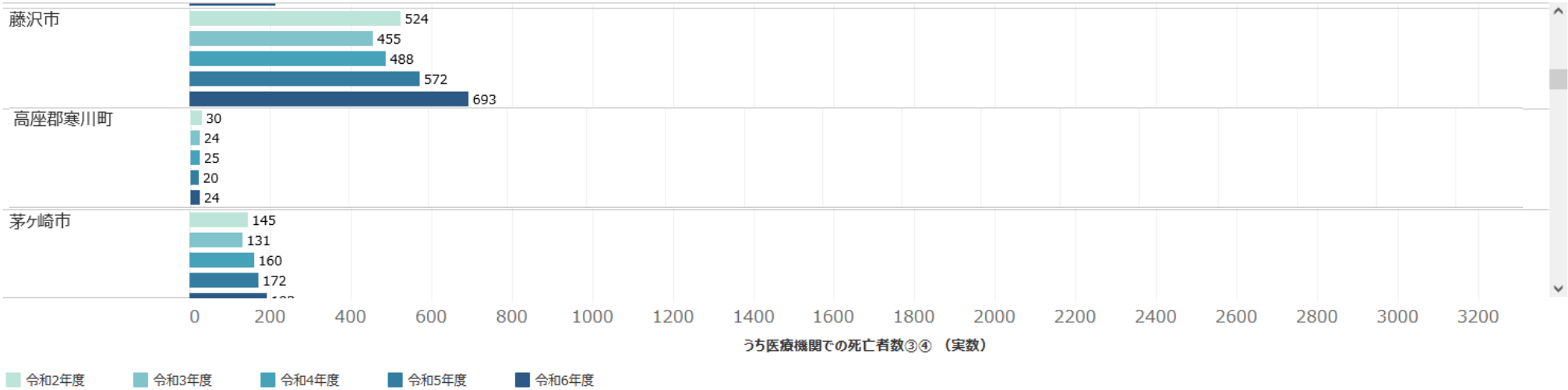
湘南東部(藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町) 直近1年に在宅療養を担当した患者のうち死亡者数(看取り)

資料○

年度 指標切り替え
令和2年度 実数

	死亡患者数①②③④						
	うち医療機関以外での死亡者数①②		うち医療機関での死亡者数③④				
	自宅での死亡①	自宅以外での死亡②	連携医療機関での死亡③		連携医療機関以外での死亡④		
藤沢市	1,648	1,124	468	656	524	227	297
小田原市	442	336	213	123	106	33	73
茅ヶ崎市	567	422	223	199	145	57	88
逗子市	178	132	73	59	46	8	38
三浦市	213	177	64	113	36	30	6

年度
(すべて)



- R2年に藤沢市で在宅療養を行った患者のうち、死亡したのは1,648件、うち自宅での死亡は468件(28.3%)、自宅以外の施設等での死亡が656件(39.8%)、医療機関での死亡は524件(31.8%)、うち連携医療機関での死亡は227件(13.8%)
- 湘南東部における医療機関以外(自宅・施設等)での死亡はR2年の69.2%からR3年に75.4%まで上昇したが、以降は顕著な増加は無し

湘南東部の地域の状況

- 2040年に向けて、75歳以上人口が1.08倍、生産年齢人口が0.89倍となる※
- 大幅に減少する生産年齢人口で、高齢者の医療需要の増加に対応する必要がある※
- R4年の構想区域における回復期・慢性期の病床は、病床全体の約30%、地域の病床のうち45%を占める急性期の持続可能性が課題(P2)
- 医師の非常勤割合は24.1%、看護師の非常勤割合は12.1%と、他の地域と比較し非常勤割合が現在でも高く、今後の医療従事者の確保に課題(P3)
- 75歳人口あたりの在宅医療患者数(支援診)は神奈川県内で比較的高く、増加傾向(P5より再集計)
- 在支診3の患者数がR2からR5で減少(3,754から2,904)しているが、支援診2の増加(7,873から10,605)、支援病2の増加(2,855から4,099)で補っている。支援診2の訪問看護が956から14,443と大幅に上昇した。支援病はいずれも訪問看護は殆ど提供していない(P5より再集計)
- 在支診の患者では、施設により自宅・施設での看取り割合のばらつきが少ないが、平均がやや低い傾向。死亡割合が低いハイボリュームの医療機関がある(P6より再集計)。医療機関での死亡のうち、連携先医療機関での死亡割合が高い医療機関と低い医療機関のばらつきが見られる。連携が十分に機能しているか検討が必要

※人口関係データは神奈川県『神奈川県将来人口推計・将来世帯推計』による

※在宅医療関連データはtableauでは市別で表示していることから、一部構想区域別に再集計したデータを参考値として提示